

結核血清ノ濁濁反應(自案)＝就テ(第五報)

反應物質吸收試驗ノ檢查成績

(本業績ハ昭和 7 年 4 月第十回日本結核病學會ニ於テ演述セルモノナリ)

名古屋市 松波病院

愛知醫學士 橋 本 義 雄

目 次

一 緒 言

二 實驗方法並ニ其ノ成績

- (第一) 濁濁反應既了後ノ上澄稀釋血清液ヲ以テセル場合ノ檢查成績
- (第二) 非稀釋血清ニ「アンチゲン」原液ヲ以テ吸收試験ヲ行ヘルモノニ就テノ檢查成績
- (第三) 非「バルサム」加「アルコールエキリアンチゲン」ニテ吸收後ノ血清ニ就テノ檢查成績

- (第四) 稀釋「アンチゲン」液ニテ吸收ヲ行ヘル血清ニ就テノ檢查成績
- (第五) 兩反應抗體ノ耐熱比較試験
- (第六) 檢查術式ヲ種々ニ變更セル場合ノマイニッケ氏濁濁反應成績
- (第七) 乾燥「リボイドアンチゲン」ニテ吸收後ノ血清ニ就テノ檢查成績

三 總括並ニ結論

參照文獻

附 英文抄録

一 緒 言

健康牛肺ヨリ抽出セル「リボイド」ヲ「アンチゲン」トシテ結核血清ノ濁濁反應ヲ検査スル自家考案ノ一新法ニ關シテハ本誌上ニ於テ既ニ前後回ニ互リ報告セル處ナルガ、今回ハ更ニ進ミテ此濁濁反應ガ結核血清ノ膠質不安定性ヲ示ス物理化學的變化ノ單一ナル反應ニ過ギザルモノナリヤ或ハ「リボイド」抗原ト「リボイド」抗體トノ間ニ於ケル免疫現象ノ一種トモ考ヘラル、モノナリヤ否ヤニ就キ研究ヲ施行セルモノナリ。由來蛋白質ニ就テハ其ノ抗原抗體反應ニ於ケル

種屬及ビ臟器ノ特異性ノ存在ハ承認セラル、處ナルモ、類脂肪體ガ抗原タリ得ルコトノ確認セラレ又一般ニ臟器類脂肪體ニハ種屬特異性ヲ有セザルモ臟器特異性ハ之レヲ有スル事ノ闡明サル、ニ到リシハ極メテ晩近ノ事ニ屬シ、此ノ點ニ關シテモ余ノ肺「エキリアンチ」ヲ以テスル結核血清反應ノ本態如何ヲ知ラントセル本實驗成績ハ興味アル結果ヲ齎ラセルモノト信ズルヲ以テ茲ニ其ノ概要ヲ報告セント欲スルモノナリ。

二 實驗方法並ニ其ノ成績

(第一) 濁濁反應既了後ノ上澄稀釋血清液ヲ以テセル場合ノ檢查成績
マイニッケ氏「アンチゲン」ニモ肺「エキリアンチゲン」ニモ共ニ強度ノ陽性ヲ呈シタル血清ノ濁濁反應既了後ノ上澄液中ニハ各他方ノ「アンチ

ゲン」ニ對スル反應物質ガ殘貽含有サル、ヤ否ヤ、又之レヲ證明シ得ルヤ否ヤーツキ次ノ實驗ヲ行ヒタリ。

即チ兩反應共ニ陽性ヲ示セルモノヲ其ノ儘一晝夜室溫ニ放置シ沈降物ノ管底ニ沈降シ其ノ上清

ノ證明トナレル部分ヲ毛細管「ビベット」一テ他ノ小試験管ニトリ、マ氏反應上清液ニ對シテハ肺「エクス」試藥 0.1 ㏍ヲ、又肺「エクス」反應上清液ニ對シテハマ氏試藥 0.1 ㏍ヲ各別ノ小試験管ニトリ、法ノ如ク兩者ヲ攝氏 45 度水槽中ニ 15 分間加温後一頓ニ混和シ室温ニ放置シ翌日成績ヲ觀察セリ。

今は等ノモノ數例ニツキ實驗シ得タル検査成績ハ第一表ニ示セル如ク、兩反應ニ同時ニ陽性ヲ呈スル血清ニ於テハ其ノ上澄液中ニハ最早ヤ孰レニ對スル反應物質ヲモ證明シ得ザル事ヲ知レリ。

第一表 濁濁反應既了後ノ上澄稀釋血清液ヲ以テセル場合ノ検査成績

血清番號	1539	1567	1558	1580	1528
氏名及性 「アンチゲン」	♀	♀	♂	♂	♀
マイニッケ氏 濁濁反應陽性 血清ノ上澄液	マイニッケ	—	—	—	—
	肺「エクス」	—	—	—	—
肺「エクス」沈 降反應陽性血 清ノ上澄液	マイニッケ	—	—	—	—
	肺「エクス」	—	—	—	—

(第二) 非稀釋血清ニ「アンチゲン」原液ヲ以テ吸收試験ヲ行ヘルモノニ就テノ検査成績

兩反應ニ對シ共ニ陽性ヲ示セル血清各 1.0 ㏍宛ヲ二列ノ小試験管ニトリ第一例ニハマ氏試藥第列ニハ肺「エクス」試藥各 0.5 ㏍ヲ入レ良ク混和シ 1 時間室温ニ放置セル後、遠心器ニヨリ沈降物ヲ沈澱セシメ其上澄血清各 0.2 ㏍宛ヲ更ニ二列ノ小試験管ニ分注シ、各々ノ試藥 0. X ㏍ (X ハ検査血清數ヲ示ス) ト 3 % 食鹽水 X. 0 ㏍トヲ攝氏 45 度ノ水槽中 25 分間加温後法ノ如ク交叉混和ヲ行ヒタルニ、其ノ成績ハ第二表ニ示セル如ク、其ノ孰レノ場合ニ於テモ此ノ場合ニ使用セルガ如キ「バルサム」含有ノ「アンチゲン」ヲ以テ處置セラレタル血清ハ最早ヤ其ノ孰レノ「アンチゲン」ニ對シテモ特異ノ反應ヲ呈セザル事

ヲ明カーセリ。

第二表 非稀釋血清ニ「アンチゲン」原液ヲ以テ吸收試験ヲ行ヘルモノニ就テノ検査成績

血清番號	1531	1527	1528	1539	1567
氏名及性 「アンチゲン」	♀	♂	♀	♀	♀
無處置	マイニッケ	冊	冊	冊	冊
	肺「エクス」	冊	冊	冊	冊
マイニッケ氏試 藥ヲ直接血清ニ 作用セシメタル 遠心上澄血清	マイニッケ	—	—	—	—
	肺「エクス」	○	—	—	—
肺「エクス」試藥 ヲ直接血清ニ作 用セシメタル遠 心上澄血清	マイニッケ	+	—	++	++
	肺「エクス」	冊	—	±	冊

(第三) 非「バルサム」加「アルコール」エキリアンチゲン」ヲ以テ吸收後ノ

血清ニツキテノ検査成績

實驗第二ニ於テハ前述ノ如ク「トルーバルサム」含有ノ「アルコールエキリアンチゲン」ヲ使用セルモノニ就テノ検査成績ナルガ、第三ノ實驗ニ於テハ此ノ「トルーバルサム」ヲ全ク加入セザル「リボイドアルコールエキリアンチゲン」ヲ以テスル交錯吸收試験竝ニ吸收操作施行後ノ血清ニ就キ濁濁反應ヲ検査セルニ、其ノ成績ハ第三表ニ示セル如ク、非「バルサム」加「アルコールエ

第三表 非「バルサム」加「アルコールエキリアンチゲン」ニテ吸收後ノ血清ニ就テノ検査成績

血清番號	1610	1602	1613	1621
氏名及性 「アンチゲン」	♂	♂	♂	♂
無處置	マイニッケ	冊	冊	冊
	肺「エクス」	冊	++	冊
自製マイニッケ 氏試藥原液ニテ 吸收後ノ血清	マイニッケ	冊	+	++
	肺「エクス」	++	+	冊
肺「エクス」試藥 原液ニテ吸收後 ノ血清	マイニッケ	+	++	冊
	肺「エクス」	冊	++	冊

キスアンチゲン」ヲ以テスルモ血清中ノ反應物質ヲ吸收スル事ノ困難ナル事ヲ明カーセリ。

(第四) 「アンチゲン」稀釋液ニテ吸收

ヲ行ヘル血清ニツキテノ検査成績

前述諸實驗ハ主トシテ臟器「アルコールエキス」ノ濃厚「アンチゲン」液ヲ以テ反應物質ノ吸收ヲ試ミタルモノナルガ、本實驗ニ於テハ稀釋「アンチゲン」ヲ以テセル場合如何ヲ試験セルモノニシテ其ノ實驗方法ハ下記ノ如シ。

即チマ氏試藥原液ヲ 25 倍量ノ生理的食鹽水ニテ點滴稀釋ヲ行ヒ出來得ル丈ケノ白濁ヲ生ゼシメ其ノ 3.0 兎ヲ兩反應陽性血清 0.6 兎ノニ加ヘテ振盪混和シ 37 度ノ孵卵器ニ 2 時間入レ、後「アスベスト」漏斗ニテ透明ナル液ヲ得ルマデ濾過シ其ノ濾液 1.0 兎宛ヲ二列ノ小試験管ニトリ、之レニ 20% 食鹽水 0.1 兎ヲ加ヘ溶媒ヲ約 3% ナラシメ、之レト別ノ小試験管ニ準備セルマ氏試藥並ニ肺「エキス」試藥各 0.1 兎宛ヲ盛レルモノトヲ 45 度ノ水槽中ニ 15 分間加温セル後法ノ如ク混和シ、又同時ニ同様ノ操作ヲ肺「エキス」原液ノ生理的食鹽水ヲ以テ 10 倍ニ點滴稀釋セルモノニツキ行ヒタリ。

第四表 稀釋「アンチゲン」液ヲ以テ吸收ヲ行

ヘル血清ニ就テ検査成績

血清番 號	1598	1480	1653	1701	1629	1627
氏名及性 處「アンチゲン」 置	♂	♀	♂	♂	♂	♂
無處置	マニツケ イ	+	++	+++	+++	+++
	肺「エキス」 エ	++	+++	++	+++	+++
マ原食十稀行 イ液鹽五釋へ ニツ生ニニ吸 ケ理テ點收 氏の二滴ヲ	マニツケ イ	—	—	±	—	±
	肺「エキス」 エ	—	—	+	±	±
肺液鹽ニ吸モ ニツ生ニニ吸 イ液水點收 ケ理テ點收 氏の二滴ヲ	マニツケ イ	—	—	±	++	±
	肺「エキス」 エ	—	—	+	++	±

其ノ實驗成績ハ、第四表ニ示セル如ク稀釋「アンチゲン」液ニテ吸收作用ヲ行ハシメタル後ノ血清ニアリテハ、兩者ニ對スル反應物質ハ其ノ孰レノ「アンチゲン」ニモ吸收攝取サレ特異性ヲ認メ得ザルガ如キ結果ヲ示セリ。

尙ホ前記實驗ニ於テハ「アスベスト」濾過ノ外ニ或ハ遠心器利用、又ハ濾紙ニヨル濾過或ハ 2 日間ノ氷室内靜置、或ハ炭灰末吸著濾過等ノ諸方法ニ就キテモ比較検査ヲ行ヘルガ、其ノ結果ハ或ハ濁濁排除ノ困難或ハ抗體吸著減少又ハ消滅等ヲ來シ、是等ノ實驗ニハ先人ノ示セル如ク「アスベスト」ヲ以テスル方法ノ最モ勝レタルヲ明カーセリ。即チ實驗用ニ供セル「アスベスト」ハ「ガーゼ」ノ袋ニ入レ水溶性ノ汚物ヲ除ク爲メ蒸餾水ヲ代ヘテ煮沸スルコト 3 回ノ後乾燥セシメ漏斗ニ裝置セルモノニシテ、之レニツキ豫メ兩反應陽性血清ヲ數回濾過シ濾過血清ニツキ、濾過前ノモノト兩反應ニ就キ比較検査ヲ行ヒ「アスベスト」濾過ハ何等血清中ノ反應物質ヲ障礙セザル事ヲ明カニセルモノナリ。

*(第五) 兩反應抗體ノ耐熱比較試驗

本實驗ノ目的ハ兩反應ニ對スル抗體ニハ或ハ耐熱性ノ點ニ於テ差異ヲ示スモノナラザルヤ否ヤヲ知ラントセルモノニシテ、其ノ實驗操作並ニ成績ハ下ノ如シ。

即チ兩反應陽性血清ニ就キ非加熱即チ働性血清攝氏 45 度、56 度、及 62 度 30 分加熱ノ四種血

第五表 兩反應抗體ノ耐熱比較試驗

血清番 號	1539	1528	1567	1558
氏名及性 處「アンチゲン」 置	♀	♀	♀	♂
無處置	マイニツケ イ	+++	+++	+++
	肺「エキス」 エ	+++	+++	+++
45°C 30'	マイニツケ イ	+++	+++	+++
	肺「エキス」 エ	+++	+++	+++
56°C 30'	マイニツケ イ	+++	+++	+++
	肺「エキス」 エ	+++	+++	+++
62°C 30'	マイニツケ イ	—	+	±
	肺「エキス」 エ	—	—	—

清ヲ作り併列試験ヲ行ヒシガ、其ノ成績ハ第五表ニ示ス如ク兩反應抗體物質ハ耐熱性ニ於テハ差異ヲ示サズ、而シテ 45 度加熱ニアリテハ働性血清ト殆ンド差異ヲ示サザルモ、56 度 30 分加熱ニ到リテ稍々弱ク、62 度ニテハ最早ヤ其ノ反應物質ノ作用ノ大部分ヲ消失スルコトヲ明カセリ。

(第六) 検査術式ヲ種々ニ變更セル場

合ノマイニッケ氏濁濁反應成績

元來マイニッケ氏濁濁反應ノ術式ハ原著者ニヨリ示サレタル如ク、働性血清 0.2 兎ヲ甲小試験管ニトリ、同氏「アンチゲン」0.1 兎ヲ乙管ニ、3%食鹽水 1.0 兎ヲ丙管ニトリ、乙丙兩管ヲ 45 度水槽中ニ於テ 15 分間加温後丙管内容ヲ乙管内ヘ一頓ニ加ヘ直ニ丙管ニ戻シテ混和シ、更ニ迅速ニ甲管ヘ加ヘ振盪混和シテ 1 時間室温ニ放置後成績ヲ判定スル方法ナルガ、之レハ更ニ 18 時間靜置後觀察スル事ニヨリテ其ノ成績ヲヨリ明瞭ナラシムルモノナリ、而シテ此ノ場合「アンチゲン」、食鹽水、血清ノ三者ノ混合方法ハ、原法ノ外ニ色々ニ組合セ得ラルベキ筈ナルモ其ノ結果ハ必ズシモ一様ナラザルハ次ノ實驗成績ニヨリ明カナリ。

(1) マ氏反應陽性血清 0.2 兎ヲ甲小試験管ニトリ、「アンチゲン」0.1 兎ヲ乙管ニ、0.85%食鹽水 1.0 兎ヲ丙管ニ、20%食鹽水 0.1 兎ヲ丁管ニトリ、乙丙丁ノ三管ヲ 45 度水槽中ニテ 15 分間加温後迅速ニ丙管内容ヲ丁管ニ加ヘ直ニ乙管ニ加ヘ更ニ甲管ニ加ヘ良ク混和シ室温ニ放置セルニ其ノ成績ハ原法ニ同一ナリキ。

(2) マ氏反應陽性血清ハ 45 度ノ水槽中ニテ 15 分間加温スルモ成績ニ變化ナカリシ故、マ氏反應強陽性血清 0.2 兎ニ 3%食鹽水 1.0 兎ヲ加ヘテ甲小試験管ニトリ、乙管ニ「アンチゲン」0.1 兎ヲトリ、甲乙兩管ヲ 45 度水槽中ニテ 15 分間加温後甲管内容ヲ迅速ニ乙管ニ入レ直ニ甲管ニ戻シテ良ク混和シ成績ヲ觀察セシニ此場合ニアリテハ極メテ弱陽性カ又ハ陰性成績ヲ示シタリ。

(3) 前記血清 0.2 兎ト 0.85%食鹽水 1.0 兎トヲ混和シテ甲管ニトリ、20%食鹽水 0.1 兎ヲ乙管ニ「アンチゲン」0.1 兎ヲ丙管ニトリ、是等三管ヲ 45 度水槽中ニテ 15 分間加温ノ後迅速ニ甲管内容ヲ乙管ニ更ニ丙管ニ加ヘ混和室温ニ放置シテ觀察セシニ、(2)ノ實驗ノ場合ニ於ケル如ク弱陽性又ハ陰性成績ヲ呈シタリ。

以上ノ成績ヨリ見ル時ハマ氏濁濁反應検査術式ヲ行フ場合ニ、血清ヲ先ヅ以テ 0.85%食鹽水又ハ 3%食鹽水ニテ移釋セル後ニ「アンチゲン」ヲ加フル方法ヲ以テスル時ハ、マ氏反應ハ減弱反應ヲ示スカ又ハ陰性成績ヲ示スコトヲ知ルナリ。

以上ハ「リボイドアルコールエキスイアンチゲン」ヲ以テスル血清ノ濁濁反應施行上ニ於テ血清稀釋ヲ行フ上ニ注意スベキ事項ナルヲ示セルモノト云フベシ。

(第七) 乾燥「リボイドアンチゲン」ニ

テ吸收後ノ血清ニ就テノ検査成績

以上ノ實驗ニヨリ濁濁反應ニ於テハ「アンチゲン」ノ「アルコールエキス」其儘ヲ用フル吸收試験及ビ「アンチゲン」ヲ生理的食鹽水又ハ 3%食鹽水ヲ以テ適當ニ稀釋シテ吸收ヲ行フ方法或ハ血清ニ豫メ稀釋ヲ行ヒタル「アンチゲン」ヲ作用セシムル方法等皆吸收試験方法トシテ適當ノモノナラザルヲ知リシヲ以テ、進ンデ乾燥「リボイドアンチゲン」使用ニヨル實驗ヲ企テタリ、即チマイニッケ氏濁濁反應抗體吸收用「アンチゲン」トシテハ健康牛又ハ馬心臓乾燥粉末ヨリ、又肺「エキス」反應抗體吸收用「アンチゲン」トシテハ健康牛肺臓ノ乾燥粉末ノ「エーテル」脂肪「アルコールエキス」ヨリ「エーテル」可溶「アセトン」不溶性「リボイド」ヲトリ、其ノ「アルコールエキス」ヲ作りテ、マイニッケ氏濁濁反應又ハ肺「エキス」沈降反應ニ對スル最適濃度ヲ測リ、然ル後各々ノ最適濃度ノ 5 倍量宛々別々ノ滅菌小試験管ニトリ滅菌乾燥「ガーゼ」ニテ試験管口ヲ蔽ヒテ雜菌ノ侵入ヲ防ギ、孵卵器内ニ放置シ「ア

ルコール」性分ノ蒸發シテ其ノ臭氣ヲ呈セザルニ到レル粘稠ナル「リボイド」ヲ採り、之レヲ各種血清0.2 ㏄中一入レ滅菌硝子棒ニテ良ク捻リ込ミ摺リ込ミ、更ニ血清0.8 ㏄ヲ追注シテ良ク混和シ均等ノ濁濁液トナシ、之レヲ孵卵器内ニ時々攪拌シツ、2 時間入レ、次イデ翌日マデ氷室ニ貯ヘタル後「アスベスト」漏斗ニテ透明ナル濾過血清ヲ得ルマデ濾過シ、其ノ0.2 ㏄宛ヲ二列ノ小試験管ニトリ、第一列ニ對シテハ「マイニッケ氏試薬0.X ㏄」、第二列ニ對シテハ肺「エキス」試薬0.X ㏄ヲ、別ニ3%食鹽水X.0 ㏄宛ヲ盛レル2 本ノ試験管ト共ニ45 度水槽中一テ15 分間加温ノ後法ノ如ク混和シ、各其ノ1.0 ㏄宛ヲ前記血清ニ加ヘ内容振盪混和靜置後其成績ヲ検査セルガ、此方法ニヨリ得タル検査成績ヲ次ニ記述スベシ。

尙此際對照試験トシテ前記操作ガ兩反應共ニ陰性ノ血清ニ對シテモ影響ナキ事ハ、第六表ニ示セル成績ニヨリ明カナリ。

第六表 乾燥「リボイドアンチゲン」ニテ吸收後ノ血清ニ就テノ検査成績

對照試験成績表 {「マイニッケ氏反應陰性」
肺「エキス」反應陰性}

血清番 號			1998	2355
處 置	氏 名 及 性 「アンチゲン」	混血清 (1)	混血清 (2)	↑ 早
		■	■	■
無 處 置	マイニッケ	—	—	—
	肺「エキス」	—	—	—
心臓「リボイド」ニテ吸收後ノ血清	マイニッケ	—	—	—
	肺「エキス」	—	—	—
肺臓「リボイド」ニテ吸收後ノ血清	マイニッケ	—	—	—
	肺「エキス」	—	—	—

前記乾燥「リボイドアンチゲン」使用ノ下ニ血清ノ吸收試験ヲ行ヘルモノニ就キ其ノ成績ヲ述ベンニ先ヅ

(A) 「マイニッケ氏濁濁反應陽性 肺「エキス」反應陰性血清」

一ツキ行ヘルモノ、検査成績ハ、第七表ニ示セル如ク、マイニッケ氏反應抗體ハ心臓「リボイド」一ヨリテ吸收サレ、肺「リボイド」一テハ影響セラレズ、又

第七表 乾燥「リボイドアンチゲン」ニテ吸收後ノ血清ニ就テノ検査成績

(A) {「マイニッケ氏反應陽性」
肺「エキス」反應陰性} 血清ノ吸收試験成績表

血清番 號		2043	2042	2045	2118	2117	2233
處 置	氏 名 及 性 「アンチゲン」	混血清 (3)	混血清 (4)	↑	↑	↑	↑
		■	■	■	■	■	■
無 處 置	マイニッケ	++	++	++	++	++	++
	肺「エキス」	—	—	—	—	—	—
心臓「リボイド」ニテ吸收後ノ血清	マイニッケ	—	—	—	—	++	++
	肺「エキス」	—	—	—	—	—	—
肺臓「リボイド」ニテ吸收後ノ血清	マイニッケ	++	++	++	○	○	++
	肺「エキス」	—	—	—	○	○	—

(B) 「マイニッケ氏反應陰性、肺「エキス」反應陽性血清

ハ肺「リボイド」一ヨリ抗體ヲ吸收サレ、心臓「リボイド」ニテハ吸收セラレザルコト、第八表ニ示スガ如シ。次ニ

第八表 乾燥「リボイドアンチゲン」ニテ吸收後ノ血清ニ就テノ検査成績

(B) {「マイニッケ氏反應陰性」
肺「エキス」反應陽性} 血清ノ吸收試験成績表

血清番 號		1780	2201	2216	1923
處 置	氏 名 及 性 「アンチゲン」	混血清 (5)	↑	↑	↑
		■	■	■	■
無 處 置	マイニッケ	—	—	—	—
	肺「エキス」	++	+	++	+
心臓「リボイド」ニテ吸收後ノ血清	マイニッケ	—	○	○	○
	肺「エキス」	++	○	○	○
肺臓「リボイド」ニテ吸收後ノ血清	マイニッケ	—	—	—	—
	肺「エキス」	—	—	—	+

(C) 「兩反應共ニ陽性ノ血清」

一ツキ實驗セルモノハ、第九表ニ示ス如クマイニッケ氏反應抗體ハ心「リボイド」ニヨリテ吸收サレ、肺「リボイド」ニテハ影響セラレズ、肺「エキス」反應抗體ハ之レニ反スル成績ヲ得タルナリ。

以上其ノ實驗例數ニ於テハ多カラズト雖モ各反應抗體物質ハ各個特異性ヲ示セル事ハ注意スベキ興味アル成績ト稱シ得ベク、乃チ此種濁濁反應ハ單一理化學的變化ニノミヨルアラズシテ「リボイド」抗原抗體間ノ免疫的反應現象ト認メ得ベキ事ヲ明カナラシメ得タリト信ゼント欲スルモノナリ。

三 總括並ニ結論

以上自家考案健康牛肺「アセトン」不溶性「リボイド」ノ「アルコールエキスアンチゲン」ヲ以テスル結核血清濁濁反應ハ「リボイド」抗原抗體間ノ血清反應ト見做サルベキモノナリヤ否ヤニ就テ、マイニッケ氏濁濁反應ヲ對照併列實施セル實驗檢査成績ヲ總括スルニ次ノ如シ。

(1) 濁濁反應ヲ施行サレタル場合ノ稀釋上澄血清液ニ就テハ、最早ヤ陽性反應物質ハ證明サレ難シ、從ツテ此ノ方法ニテハ反應物質ノ特異性ヲ證明シ得ラレズ。

(2) 血清原液ニ「アンチゲン」原液ヲ加ヘ、交叉吸收作用ヲ行ハシメタル後遠心分離セル血清ニ就テノ檢査成績ハ特異的ナラズ、即チ此ノ方法ニ於テモ反應物質ノ特異性ハ示サレ難シ。

(3) 上記(1)(2)ノ實驗成績ハ「トルーバルサム」加「アンチゲン」ニ就テノ實驗成績ナルガ、非「トルーバルサム」加「アンチゲン」ヲ以テセル場合ニ於テモ其ノ成績ハ同一ナリ。

(4) 兩反應抗體物質ノ間ニハ耐熱的差異ヲ認メ

第九表 乾燥「リボイドアンチゲン」ニテ吸收後ノ血清ニ就テノ檢査成績

(C) {マイニッケ氏反應陽性} 血清ノ吸收試驗成績表
{肺「エキス」反應陽性}

血清番 號			2352	1953	1940
處 置	氏 名 及 性 「アンチゲン」	混血清(6)	混血清(7)	↑	↑
		冊	冊	冊	冊
無 處 置	マイニッケ	冊	冊	冊	冊
	肺「エキス」	冊	冊	冊	冊
心臓「リボイド」ニテ吸收後ノ血清	マイニッケ	冊	冊	冊	冊
	肺「エキス」	冊	冊	冊	冊
肺臓「リボイド」ニテ吸收後ノ血清	マイニッケ	冊	冊	冊	冊
	肺「エキス」	冊	冊	冊	冊

ズ。

(5) 乾燥「リボイドアンチゲン」ヲ以テ血清原液ニ就キ吸收試驗ヲ行ヘルニ、肺「エキス」ニ對シテ陽性反應ヲ呈スル血清ノ反應物質ハ、乾燥肺「エキス」ニヨリ吸著攝取セラル、モ、マイニッケ氏反應陽性血清ハ之レヨリ其ノ濁濁反應ニ影響ヲ受クル事ナシ。之レニ反シ、乾燥牛心「エキス」ハマイニッケ陽性血清ノ反應物質ヲヨク吸著攝取スルモ、肺「エキス」陽性血清ニ影響ヲ與ヘズ。

以上ノ成績ニヨレバ、余ノ肺「エキス」沈降反應ハ「リボイド」抗原抗體間ノ特異反應現象ナリトモ解釋シ得ベク、又之レハ「リボイド」ニハ種屬特異性ナキモ臟器特異性ヲ有ストノ最近ノ學說ニ對シテモ有意義ノ關與ヲ示セル實驗成績ナリト思考ス。

擱筆ニ臨ミ終始懇篤御指導ヲ賜ハリタル松波博士ニ満腔ノ謝意ヲ表シ、松波院長、加藤博士並ニ醫局諸兄ノ御援助ヲ深謝ス。

参考文献附英文抄録

1) 松波, 橋本, 肺臓「エキス」ト肺結核血清トノ補體結合反應並ニ沈降反應ニ就テ「結核」第六卷. 第三號. 2) 橋本, 肺臓「エキス」ト結核血清トノ沈降反應(續報)「結核」第七卷. 第三號. 3) 橋本, 結核血清ノ濁濁反應(自案)ニ就テ(第三報)(定量的檢査法)「結核」第八卷. 第十二號. 4) 橋

本, 肺臓「エキス」ト結核血清トノ濁濁反應(自案)ニ就テ(第四報)(血液滴像法トノ比較)「結核」第十卷. 第一號. 5) 坂本, 類脂肪體ノ血清學的特異性ニ就テ「社會醫學雜誌」第五一四號. 昭和四年十一月.